

1 秋田国家石油備蓄基地 男鹿市船川港芦沢




全国に10ヵ所ある国家石油備蓄基地の一つ。平成7年にオイルインし世界一巨大な地中タンク12基（直径90～97m、液深48m）地上タンク4基があり、合計450万klの原油貯蔵容量を誇ります。

2 石組みの防波堤 男鹿市船川港芦沢



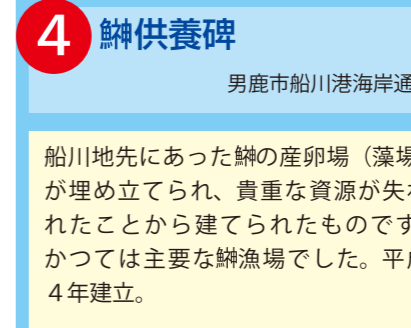
県港湾事務所近くの港湾施設にあります。今では珍しい昭和5年の間地石組みの防波堤。戦前の築港（第二船入場）に係わる貴重な産業遺産です。

3 芦沢神社 男鹿市船川港芦沢



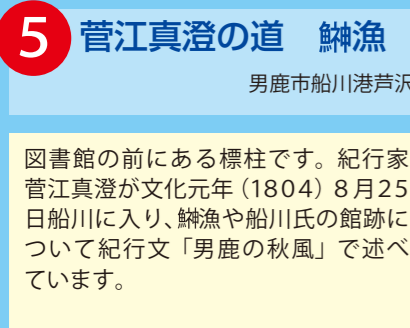
鱒の神様として、漁民に信仰されています。11月4日には鱒祭りとして初漁の時期や、大漁かどうか占いが行われています。

4 鱒供養碑 男鹿市船川港海岸通り




船川地先にあった鱒の産卵場（藻場）が埋め立てられ、貴重な資源が失われたことから建てられたものです。かつては主要な鱒漁場でした。平成4年建立。

5 菅江真澄の道 鱒漁 男鹿市船川港芦沢




図書館の前にある標柱です。紀行家菅江真澄が文化元年（1804）8月25日船川に入り、鱒漁や船川氏の館跡について紀行文「男鹿の秋風」で述べています。

6 神明社祭典神輿の海上渡御




毎年5月21日の例大祭に行われます。昭和43年から、明治維新百年を記念に行われています。豊漁と航海安全を祈願し、豪壮なパレードが繰り広げられます。

7 森長旅館 男鹿市船川港栄町




昭和初期の建物といわれています。外観は重厚で玄関ポーチにはモダンな意匠を付けています。船川港が栄えた頃の近代建築として貴重な建物です。平成17年、国登録有形文化財に指定されました。

8 嶺徳院 男鹿市船川港鳥屋場




船川の高台にある禅宗の寺院です。寺伝によれば江戸中期の開創とされます。墓地には、さかんに往来した北前船の船乗りの墓碑が残っております。

9 船川神明社 男鹿市船川港鳥屋場




船川の高台にあり、市街地が望めます。創立は不明ですが、境内地にある佐竹神社、保量神社、金比羅神社とともに信仰されています。佐竹神社では、11月9日に鱒の大漁祈願祭が行われています。

10 楽水亭庭園・大龍寺 男鹿市船川港鳥屋場




海と山を眺望する景勝地にあります。広大な庭園と七堂伽藍を備えた室町時代開創の禅寺で、静寂さの中にも四季折々の彩りを添えて訪れる人に安らぎと感銘を与えてくれます。国文学者・折口信夫が詠んだ歌碑等があり、多くの文人墨客が訪れた名刹です。

11 傳用寺 男鹿市船川港船川



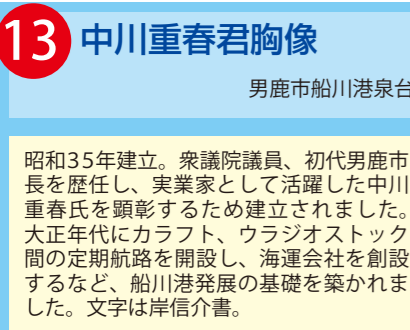
真宗大谷派の寺院で大正10年に現在地に伽藍を整備しました。昭和50年再建されました。付近には中世船川氏の館跡があったといわれます。

12 鯨学校記念碑 男鹿市船川港泉台




明治22年、船川の海岸に百数十頭の鯨が打ち上げられました。住民はその鯨を売った代金の一部で小学校を建設。『鯨学校』（現船川第一小学校）と呼ばれて親しまれました。市役所裏の高台に記念碑があります。

13 中川重春君胸像 男鹿市船川港泉台




昭和35年建立。衆議院議員、初代男鹿市長を歴任し、実業家として活躍した中川重春氏を顕彰するため建立されました。大正年代にカラフト、ウラジオストック間の定期航路を開設し、海運会社を創設するなど、船川港発展の基礎を築かれました。文字は岸信介書。

14 旧船川倉庫 男鹿市船川港新浜町



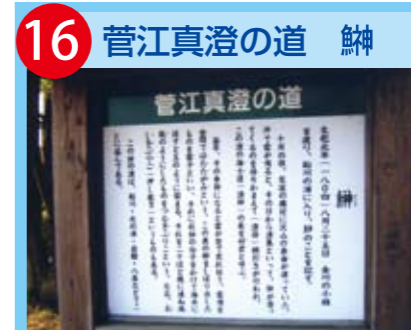
大正5年頃に建てられた石造りの倉庫。かつては三棟続きの倉庫で県産の米、台湾の砂糖、大連（中国）の大豆カスなどを保管しました。港の歴史を物語る遺産です。

15 旧船川線防波堤 男鹿市船川港海岸通り



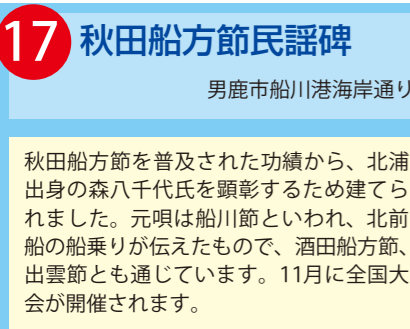
大正初め国鉄船川線を布設する際、築かれた防波堤です。海面の埋立て前は、前面に海が広がっていました。寒風石による堅固な石垣で、その後の強い地震にも耐えてきました。

16 菅江真澄の道 鱒 男鹿市船川港海岸通り




市民文化会館駐車場にあります。紀行家菅江真澄が文化元年（1804）8月、船川で鱒のことを紀行文「男鹿の秋風」の中で説明した内容です。

17 秋田船方節民謡碑 男鹿市船川港海岸通り




秋田船方節を普及された功績から、北浦出身の森八千代氏を顕彰するため建てられました。元唄は船川節といわれ、北前船の船乗りが伝えたもので、酒田船方節、出雲節とも通じています。11月に全国大会が開催されます。

18 男鹿のまるきぶね 男鹿市船川港海岸通り




天然秋田杉をくりぬいて造られていることから「えぐり舟」とも呼ばれました。岩が多い海岸で行われる漁業に適した舟として使用されました。昭和40年、国指定重要有形民俗文化財に指定されました。

19 築港六十周年記念碑 男鹿市船川港海岸通り




海面を埋め立てて造成した金川近隣公園内にあります。昭和46年に船川築港60年（明治43年に重要港湾に指定され、着工した）を記念し建てられました。

20 洞泉寺 男鹿市船川港金川



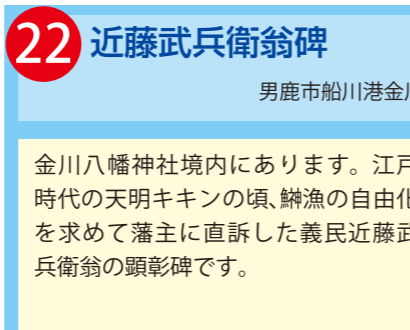
金川地区の高台にあり、中世に開創されたといわれている禅宗の寺院です。境内には、古い石碑や北前船ゆかりの石造りの観音様があります。

21 金川八幡神社 男鹿市船川港金川



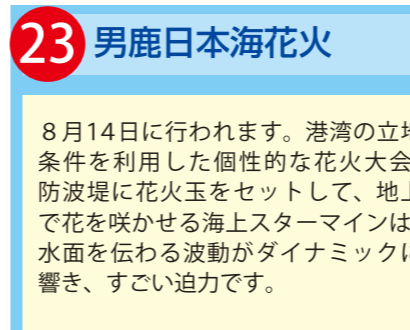
洞泉寺の北側にあります。創立は不明ですが、金川地区の鎮守として信仰されています。境内には、鱒漁ゆかりの近藤武兵衛翁の顕彰碑があります。

22 近藤武兵衛翁碑 男鹿市船川港金川



金川八幡神社境内にあります。江戸時代の天明キキンの頃、鱒漁の自由化を求めて藩主に直訴した義民近藤武兵衛翁の顕彰碑です。

23 男鹿日本海花火



8月14日に行われます。港湾の立地条件を利用した個性的な花火大会。防波堤に花火玉をセットして、地上で花を咲かせる海上スターマインは、水面を伝わる波動がダイナミックに響き、すごい迫力です。

男鹿のナマハゲ



毎年、大晦日の晩に行われます。厄災を祓い、豊作・豊漁・吉事をもたらす来訪神として各家では丁重にお迎え、もてなします。船川地区でも行われています。昭和53年、国重要無形民俗文化財に指定されました。